万　緑　平成２４年度河口湖南中第２学年通信 NO. 25
Ｈ２４．１２．２１ 文責　小野　靖

校長先生から学ぶ会

先週の13日、校長先生よりお話をいただく機会を得ました。中学校2年の今の時期、何に気づき何をしておくべきなのか。また、湖南中の2年生に周りの大人は何を期待しているのか。最も身近な大人の一人であり、しかも多くの子どもたちを見てこられた校長先生の話には、多くの生徒や私たちも感銘を受けました。

ご自分の学生時代からの話、恩師である永岡先生との出会い、教員生活における子どもたちとの出会いから、今の時代を生きる中学生に求める姿、こうあってほしい生活について語っていただきました。ご存知の通り、校長先生は今年度をもってご退職になられるので、ぜひともその前に子供たちに向けてのメッセージやご教示をいただきたいと思っていましたので、まさに絶好の機会でありました。

振り返りカードの中にもたくさん書かれていたように、その言葉の中には、教員生活を続けてこられた上での知恵と私たちが「よりよく生きる」ためのヒントが詰まっていました。なかでも、「食わず嫌い」と題した学習面での話、「好きな人が違って当然」という生活面での話には、子どもたちは「なるほど」と思いながら聞き入っていました。

以下に子どもたちの感想の一部を載せます。

＊校長先生も学生時代に苦手なことがあったということを初めて知った。数学は私も苦手なので、問題集の選び方を教えてもらってよかった。
なぜ、体育系の方へ進まなかったのかということがわかり、人との出会いは自分を変えてくれるんだと思った。自分がいやなことは人にしてはいけない、真心のこもっていない言葉や態度はいいことではない、ということをあらためて思った。人はひとりでは何もできなく、支えあっていくことがたいせつなのだということがわかった。

＊校長先生は数学ができない、ということが予想外だった。でも、やればできるの可能性を信じて、ひたすらに勉強して点数が取れたのはすごいなと思った。自分も頑張ってみようかなと思う。あと人の好き嫌いがあって驚いた。他の先生たちみたいに「誰とでも仲良くしろ」じゃなくて、「嫌いな人もいて当然だけど、それを態度で示すのはよくない」というあたりが、自分とは違って純粋に尊敬できた。校長先生が湖南中に来てくれてよかったと思う。自分も校長先生みたいな考え方のできる人になりたいと思った。今は勉強を頑張りたい。

＊校長先生が数学が苦手だったと聞いて驚いた。だけど、入試の時、苦手だった数学だけを勉強して合格したのはすごいと思った。自分も苦手な教科があるけれど、できないと決めつけないで、『できるかもしれない』という可能性を見つけたいなと思った。また、何事にも一生懸命取り組もうとあらためて思うことができた。

人にはそれぞれ、良いところも悪いところもあるので、自分がされて嫌なことは絶対相手にしちゃいけないし、行動に移す前に必ず考えてからにしようと思った。相手がどんな人でも、まごころを込めた言葉や態度を大切にしていこうと思った。

＊校長先生は、入試の時に数学しかやらないなんて度胸があると思った。僕にはできないと思った。校長先生はAKB４８の前田敦子が好きだったという例を出して、人それぞれの好みがあるということを示してくれた。
当然のことだけれど、人がされてイヤなことは、ほかの人にはしてはいけないのだとあらためてわかった。中学の時にいろんなことに挑戦して、可能性を広げる。何もしなかったら何も始まらない。ためになる話を聞けてよかった。ありがとうございました。

＊今回、校長先生から話を聞いて、「可能性」と「個性」の二つの話が身にしみました。可能性では、自分の可能性は無限大で、それを見つけるためにいろいろなことを経験しておくとよいよいうことがわかりました。個性では、人の好き嫌いがあるのはいいが、それを外に出したりしてはいけないとわかりました。私は今日聞いたことを忘れず、自分の教訓として生活していきたいです。

＊校長先生の話を聞いて、自分も嫌なことはやりたくない、と言ったり、『これはできないから』と最初からあきらめてしまうことが多いなと思った。だからできるかもしれないという可能性を自分でつぶしてしまっていると感じたから、これからは何事もイヤなことでも積極的に取り組みたい。それと人との出会いは大切だと思った。自分の周りにいる人を大切にし、これからの人生での人との出会いを大切にしていきたい。どんなことでも素直に受けとめ、自分の人生を自分の意思で決められるようにできたらいいと思う。

＊今日、校長先生の話を聞いて、「やらないうちにあきらめないこと」を学んだ。僕は校長先生と同じで、数学が大嫌いで、いままでは数学の勉強から逃げてたけど、これからは逃げないで挑戦したいと思った。自分の考えを持つことはとても大切で、これから先大事だということもわかった。自分一人だけでは何もできないこともわかったし、これから協力していきたいと思った。まだ校長先生の言ったところでわからないところもあるけれど、自分の考えを持つことをこれから実践していきたいと思った。じっくりと物事を考えて行動できるようにしていきたいと思った。貴重な話を聞くことができてよかった。

＊校長先生の話を聞いて、先生も嫌いな教科があって、それで自分で解決策みたいなものを見つけられていたのはすごいなと思った。私の場合、決められた課題しかないので、もうすぐ3年生になるし、頑張らなきゃと思った。そのほかには校長先生はたくさんの人とステキな出会いがあり、いいなと思った。
教師になってからの話を聞いて、先生はこういうふうに思っているんだ、と思ったりもした。そして校長先生とその元生徒の話を聞いて、その仲がうらやましく感じたりもした。校長先生の思いがすごく伝わった時間だったと思った。

＊校長先生の話を聞いて、校長先生と自分が似ている部分が少しあったので、ほっとしました。校長先生が嫌いと言っていた数学の話で、自分も数学が一番苦手です。自分でもテストで〇〇点とかいく時もあって、良い時では〇〇～〇〇点の間ぐらいです。校長先生がやっていたことで、5時間勉強するのはとてもいいことなので、今回の話を聞いて、やってみたいと思いました。本当にこの話を聞いて、校長先生にすごく感謝しています。本当にありがとうございました。

＊自分は大きな仕事を請け負ったけれど、まだ自分ひとりではどうしようもないから、校長先生が話してくれたことの中で、多くの経験で自らを育てていけたらいいと思った。自分ひとりじゃ何にもできない時もあるけど、その時はみんなで協力して乗り越えていきたいと思った。でも自分でやっていく挑戦をまずやっていきたいと思った。校長先生の話を聞いて、一番に感じたことは、とにかく頑張ることが大切だということと、相手を思うまごころが大切なんだなあと思った。

＊校長先生の半生を通して、何をすべきかわかった。それは、走ることだと思った。今のうちから、同じクラスの人やクラスの人たちを追い越せるほど。頑張れば、差をうめられるし、それ以上の力を得ることができると思った。いかに自分の欠点に気づくか、が大切だと思った。目標とする人の何倍も速く走って、いい高校生活が送れるように自分のビジョンを広げて頑張りたいです。

＊今していくべきことは、いろんな経験を積んでいくことだということがわかった。たくさん経験を積んで、いろんなことを頑張っていけば、必ず「自分の可能性を見つける」ことができると思うので、今は何事も真剣に取り組んでいこうと思った。どんな人にもまごころで接したいと思った。

＊できないからやらないとか、自分の能力を勝手に決めるのはいけない思いました。自分の可能性を信じて、いろいろな経験をたくさんしていきたいと思いました。あと、たくさんの人との出会いによって、自分の人生が変わることが分かりました。
「自分がやられていやなことはほかのひとにしてはいけない」とても納得しました。校長先生の話は自然と自分の耳にも入ってくるし、いろいろなものの見方がわかってきて、大切なことがたくさんつまっていました。自分のためにも、人のためにも、今できる目の前のことを一生懸命やっていきたいです。

＊校長先生の話は、どれも今後の人生には大切なことだと感じました。特に、「数学の勉強の話」では、私も英語が苦手なので、早めからしっかり準備していきたいです。また、部活動で総体にいい結果を残すために一生懸命頑張っています。なので、来年の夏までは勉強と部活を両立して、両方うまくいくように努力していきます。また、「まだ２ねんせいだから・・・」と考えずに「もう２年生だから！」と考えていくようにして、受験に向けて必ず１日１時間以上勉強するようにします。親が「ちゃんと勉強しなさい！」と言う理由があらためてわかりました。しっかり勉強して、しっかり親の手伝いをしていき、みんなに感謝されるようなことをしていきたいです。

＊今回の話はとても参考になりました。まず、ひとつ目に勉強です。校長先生は数学だったけど、自分は英語です。でも嫌いだから、めんどうくさいとか、いやだなあと思ってしまうと思うので、まず英語を好きになってみようと思います。次に人との出会いです。これからすごく小さなことでも未来につながるということが分かりました。３つめは怒られることの大切さです。先生は反省して行動することを期待していると言ったので、怒られた後の行動を大切にしていきたいです。